

活動報告

団体名	NPO 法人湘南遊映坐
活動名	熊本県南阿蘇村の避難住民のための出張上映会を通じたコミュニティ再生事業
活動期間	2017年3月～2017年9月
活動の成果	<p><成果1> 映画上映と住民交流会を通じて、室南出口仮設団地と岩坂仮設団地の避難住民同士の交流を促し新たな「コミュニティづくり」に貢献できた。</p> <p><成果2> 映画上映と住民交流会を通じて、室南出口仮設団地と岩坂仮設団地の避難住民の方々の「心の復興」に貢献できた。</p> <p><成果3> 地元の「支援団体（南阿蘇村社会福祉協議会、熊本学園大学 OBOG ボランティア連絡会等）の支援」をすることができた。</p> <p><アンケート結果> 男性6人、女性26人 大変良い：合計20人、良い6人、普通2人 ・人生の色々な生き方を学ばせていただき、大変感動しました。今後、仮設でも明るく過ごしていけそうです。 ・映画上映会ということで参加がしやすく、はじめてみんなの家に来ましたが、知らない人たちとも仲良くなれて良かった。また継続してほしい。</p> <p><課題と今後の見通し> ・現地の支援団体の皆さんも、外部からの応援があると活性化すると評価をしてくださっている。また、住民の方々も活動継続を望んでいる。あくまで現地団体と住民の方々の自律が大前提だが、湘南遊映坐としても、ニーズがある限り、サポートを続けていく必要性を感じた。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>このたびは「熊本県南阿蘇村の避難住民のための出張上映会を通じたコミュニティ再生事業」をご支援いただき、誠にありがとうございました。昨年4月の熊本地震発生以降、支援物資や募金から支援活動を開始しましたが、その後、避難所での支援、仮設住宅での支援と活動を展開し、継続してきました。</p> <p>その間、一貫して大切にしてきた支援のスタンスは、「支援する側」と「支援される側」という縦の関係性ではなく、お互い交流して寄り添い伴走するという横の関係性でした。この姿勢は、元熊本学園大学教員で故・森本佳樹立教大学名誉教授から教わった福祉の叢智でした。</p> <p>この「伴走する」「交流する」支援活動は、東日本大震災の支援活動で成果を上げた手法でしたが、熊本地震の支援であっても、コミュニティ支援に貢献できることが証明されました。</p> <p>一見すると、徐々にハードが復旧し、避難地域の解除も進みつつありますが、分断されたコミュニティはまだ多く残されており、細く長い支援の手を必要とされている方は多く存在します。</p> <p>当 NPO が湘南鎌倉で主催している映画祭でも、熊本地震の支援活動パネル展示を行い、現地の被災状況と支援の様子を紹介しました。</p> <p>「ボラサポ・九州」の支援によって継続できた今回の活動の成果を糧に、現地支</p>

援団体へのバックアップを引き続き行い、その成果を社会にも還元してまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。

(活動のようす)

